

【2】事業実績

事業実績一覧

実施項目		場所	参加者	期間
(1)	事業推進委員会の開催			
	第1回事業推進委員会	オンライン	14名	令和4年7月26日
	第2回事業推進委員会	東京	13名	令和5年2月28日
(2)	日系農業者等連携強化会議の開催			
	第1回日系農業者等連携強化会議	オンライン	116名	令和4年8月3日
	第2回日系農業者等連携強化会議	サンパウロ	144名	令和5年2月3日
(3)	若手日系農業者等を対象とした交流会議の開催			
	第1回若手日系農業者等を対象とした交流会議	サンパウロ	61名	令和4年9月7日
	第2回若手日系農業者等を対象とした交流会議	サンパウロ	43名	令和5年2月4日
(4)	日系農業者等研修・セミナーの開催			
	①若手農業者等の育成研修（日本への招へい）			
	アグリビジネス研修「生産性」	日本	10名	令和4年10月7日～10月28日
	アグリビジネス研修「土壌」	日本	10名	令和4年10月20日～11月10日
	②日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修（日本への招へい）			
	女性活躍推進研修「特産品」	日本	8名	令和4年11月10日～12月1日
	③日系農業者等ウェビナー（オンライン）			
	農産物の高付加価値化	オンライン	38名	令和4年10月18日
	土壌管理	オンライン	61名	令和4年11月1日
	女性部活動（特産品）	オンライン	25名	令和4年11月25日
	養鶏	オンライン	25名	令和4年12月21日
	④農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修（中南米現地）	ブラジル	106名	令和5年1月26日～2月9日
(5)	日本の企業と日系農業者等とのビジネス交流			
	①日本の地方企業とのビジネスマッチング構想の策定	—	—	令和4年7月～8月
	②現地でのビジネスマッチング（農業ビジネスセミナー等の開催）	ブラジル等	2社	令和5年1月27日～2月7日 令和5年1月27日～2月11日
	③日本での連携促進の取組	日本	4社	令和4年10月25日
	④ビジネス交流の実績調査	—	—	令和4年11月～令和5年4月
(6)	官民合同の二国間会議の開催	オンライン	コロンビア	令和5年1月19日、2月15日
(7)	日系農業者・団体等に関するデータベースの構築	7か国	45団体	令和4年12月～令和5年3月
(8)	中南米への食産業展開・輸出促進セミナーの開催	オンライン	93名	令和5年3月17日
(9)	スマート農業（農業ICT）整備状況調査等	ブラジル		令和5年3月
(10)	ブラジルを中心とした日本食・日本食材の流通実態調査	ブラジル		令和4年11月～令和5年1月
(11)	その他必要な調査等	—	—	—
(12)	情報発信等	—	—	令和4年7月～令和5年3月
(13)	会議等の記録・報告	—	—	令和4年7月～令和5年3月

日本と日系農業者等との連携強化・交流に資する取組
日系農業者等の相互の連携強化に資する取組

1 事業推進委員会

事業計画、連携会議で提起された日系農業者等が抱える課題の解決方法及び報告書の検討等を行うため、事業対象国の日系農業者等、中南米地域の農業、中南米全体の地域政治経済社会の情勢、日本の食産業及びその海外展開に精通した委員を以下の通り選定し、委員会を2回開催した。

No.	氏名	所属・役職	人選の理由
1	田中 久義	農林中金総合研究所 客員研究員	南米で農協強化に取り組んだ経験を有し、農業組織の活性化や農業金融に関して幅広い知見を有している。委員を9年務め、平成31年度（2019年）には現地連携強化会議に出席した。これまでの本事業の主旨に基づき中南米日系社会との連携強化、マクロ経済の視点からの意見を得る。
2	山田 隆一	東京農業大学 国際食料情報学部 教授	農林水産省、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）に在籍、その間に農業経済、農業経営の専門家として国際熱帯農業センター（CIAT）へ出向、JICA 専門家を含めた国際協力に長年携わってきた。スマート農業等の最新技術の知見も持ち、農業経営・農村経済、の将来的な方向性について意見を得る。
3	竹下 幸治郎	拓殖大学 国際学部准教授	日本貿易振興機構（JETRO）にてブラジル、チリ駐在、中南米経済の調査や戦略部門での業務に携わってきた。中南米経済、企業経営戦略、通商政策などを専門とし、スタートアップ企業の状況にも詳しい。食産業を含めた農業ビジネスの中南米進出に関して意見を得る。
4	小原 学	国際協力機構 中南米部 部長	国際協力及び中南米の日系社会、日本企業の中南米へのビジネス進出事業を促進する立場で携わっている。2022年3月まではJICA ボリビア所長、それ以前もボリビア駐在経験があり、委員として中南米の諸状況、日本企業進出支援を含めた日本の国際協力等の知見に基づき、本事業の方向性、内容について意見を得る。
5	吉田 憲	九州大学 国際戦略企画室	元国際協力機構中南米部長であり、現在は九州大学に所属する。中南米の日系社会、また日本企業の中南米へのビジネス進出事業に造詣が深く、委員としても5か年度参加しており、日本の国際協力の視点から本事業の方向性、内容について意見を得る。

回	日程	場所	参加者
第1回	令和4年7月26日（火）9:30-10:30	オンライン	14名
第2回	令和5年2月28日（火）14:00-15:30	農林水産省	13名

開催概要及び実施結果を以下に示す。議事録の詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。

(1) 第1回事業推進委員会

1) 基本情報

日程	令和4年7月26日(火) 9:30-10:30
場所	オンライン (Zoom)
参加者	委員5名、農水省6名、事務局3名 計14名
内容	1. 昨年度事業の成果と課題 2. 今年度事業の実施内容・方向性

2) 参加者

No.	氏名	所属・役職
1	田中 久義	農林中金総合研究所 客員研究員
2	山田 隆一	東京農業大学 国際食料情報学部 教授
3	竹下 幸治郎	拓殖大学 国際学部 准教授
4	小原 学	国際協力機構 中南米部 部長
5	吉田 憲	九州大学 国際戦略企画室 特任教授
6	吉岡 孝	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)
7	川上 秀雄	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 国際調整官
8	古川 裕司	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 国際専門官
9	中野 直樹	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 国際専門職
10	柏原 野々花	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 係員
11	林 瑞穂	農林水産政策研究所 主任研究官
12	松尾 有紀	中央開発株式会社 グローバルセンター 業務部長
13	山口 達朗	中央開発株式会社 グローバルセンター 部長
14	余川 達郎	中央開発株式会社 グローバルセンター 課長



委員会の様子

3) 議事要旨

【今年度事業の内容の説明】

- 各種研修セミナー・会議等は対面とオンラインのハイブリット形式の実施とし、コロナ感染状況を見ながらできる限り対面での開催をしていく。
- 日系農業者等研修・セミナーとしては、10～11月に5カ国（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー）からの参加者を対象に日本研修を実施予定で、8月の日系農業者等連携強化会議でアナウンス、参加者募集を行う。アグリビジネス研修「生産性」、アグリビジネス研修「土壌改良」、女性活躍推進研修「特産品」の3グループに分かれて合計28名を招聘する。
- 中南米現地側でもパラグアイの養鶏専門家をサンパウロ州バストスに派遣し、養鶏に関する意見交換を行う研修を計画している。
- 日系農業者等連携強化会議は、第1回の8月開催はオンラインだが、第2回は2月にサンパウロでの集合も含めたハイブリット形式で開催する予定。
- 日本企業と日系農業者等とのビジネスマッチングでは、2社程度を中南米現地に派遣し現地視察や商談等を行う（1月下旬予定）。
- その他、官民合同二国間会議や調査事業（スマート農業（農業ICT）整備状況調査、日本食材流通

- 実態調査)、データベースの更新、食産業展開・輸出促進セミナー(旧GFVC中南米部会)も行う。
- 今年度事業の注意事項としては、日系人の訪日研修・日本企業の中南米現地派遣ともにワクチン接種やPCR陰性証明の手続き、直前でのコロナ感染などで、実施が延期・中止になることが考えられるため慎重な運営が必要。

【今年度事業内容への意見】

研修セミナー

- 数年ぶりの対面での訪日研修だが現地の反応はどうか。
→(事務局) まだ案内していないので見えないところがある。
- 各種研修セミナーのテーマは昨年度の要望から選定しているということだが、例えば土壌改良というテーマは地域・部落・農家毎に違うのでターゲットを絞るとより効果的と思う。有機物の施用に対しても施用余力のある農家と余力がない農家があるので、見極めることも大事。
- 時差等がありオンラインでも参加が難しいことも考えられ、研修セミナー実施後はアーカイブを残すと良い。
- 肥料の価格高騰が中南米でも問題となっているため、テーマに盛り込んでどうか。
- 養鶏技術はブラジルの方が進んでいるイメージがあるが、パラグアイの養鶏専門家をブラジルへ派遣する意図は何か。
→(事務局) 予定しているパラグアイの専門家は同国の鶏卵マーケットでは大きな規模を占める経営を行っており、販売方法も参考となる。また今回は講師としての専門家派遣というよりも、昨年度から継続した各国の養鶏生産者の情報交換がメインと考えている。
- ICT農業はブラジルの現政権では注目度が高いが、今秋以降の新政権では不透明。新政権の動向も注視する必要がある。

会議

- 会議などでは声の大きい人の意見が聞こえてきやすい。インフレや肥料調達などの経営環境の課題は、より多く現地の意見を吸い上げるため、終了時のオンラインでのアンケートが重要となる。

ビジネス創出

- ビジネスマッチングに向けて、中南米に興味を持っていない日本企業の掘り起こしも重要。地銀や北米・オーストラリアと取引のある企業にもビジネスマッチングの機会をPRしてはどうか。
→(事務局) 今年度はより多くのマスコミ(中南米関連以外も)にも広報をしていく予定。

情報発信

- より本事業をPRするために中南米に関わる各種イベント(フェスティバルジャポン、沖縄返還50周年関連のイベント等)で事業紹介を行うことで、日系・非日系関わらず広く広報できるのでは。
- 研修・セミナーの様子もYouTubeで配信し、中南米の農協だけではなく日本の農協等にも見せようというのではないか。
- 以前組織された同窓会(J-AGRO)を、研修参加者募集の際などに広く活用できると良い。
→(事務局) 訪日研修の際に、日本在住の中南米系インフルエンサーに同行及び本研修や事業について、また日本の農業の魅力を発信してもらう予定。

他機関との連携

- JICAではパラグアイやボリビアなど農業関連の事業も多く、現在及び将来的にも連携していけるよう進めていきたい。
- スタートアップなどの若者支援もJICAは力を入れているので、当該事業もそのテーマに注力することでより連携が深められると思う。

コロナ感染への対応

- コロナ感染拡大等で対面での事業実施が難しい場合の代替案はあるのか。
→(事務局) 現時点で具体的な代替案はないがオンライン開催の拡充が1つの手となりえる。また、開催直近での不測の事態もあるとシミュレーションし、どう対応できるか考えながら臨みたい。
- JICA事業も対面や現地派遣を行うようになってきたが、コロナの感染状況で中止となったものもあり、本事業においても状況は同じかと思う。

(2) 第2回事業推進委員会

1) 基本情報

日程	令和5年2月28日(火) 14:00-15:25
場所	農林水産省会議室
参加者	委員5名、農水省6名、事務局2名 計13名
内容	今年度事業の報告、本年度事業・次年度事業

2) 参加者

No.	氏名	所属・役職
1	田中 久義	農林中金総合研究所 客員研究員
2	山田 隆一	東京農業大学 国際食料情報学部 教授
3	竹下 幸治郎	拓殖大学 国際学部 准教授
4	小原 学	国際協力機構 中南米部 部長
5	吉田 憲	九州大学 国際戦略企画室 特任教授
6	吉岡 孝	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)
7	川上 秀雄	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 国際調整官
8	中野 直樹	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 国際専門職
9	田上 久美子	輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 係長
10	柏原 野々花	農林水産省 輸出・国際局 国際地域課 参事官(新興地域担当)室 係員
11	林 瑞穂	農林水産政策研究所 主任研究官
12	松尾 有紀	中央開発株式会社 グローバルセンター 業務部長
13	余川 達郎	中央開発株式会社 グローバルセンター 課長

3) 議事要旨

【事業実施結果の報告】

- 訪日研修は8月に募集と選考、9月に派遣準備、10～11月に訪日研修3コースを実施した。当初は研修参加対象でなかったメキシコやコロンビアも参加が可能となった。若手農業者等の育成研修は2コース(アグリビジネス研修「生産性」・「土壌」)各10名の合計20名、女性活躍推進研修「特産品」は8名で開催。
- 訪日研修生と日本企業の連携促進として、10月25日に農水省で中南米アグリビジネス商談会を開催。日本企業と日系農業者等とのビジネス交流は、企業2社(鮮度保持シートの製造、有機性廃棄物の発酵処理機の製造)を1月下旬から中南米に派遣。
- 専門家派遣研修は、中南米側の関心の高い微生物を活用した土壌環境改善(ヤマカワプログラム)の専門家をブラジルに派遣し、1月下旬からブラジル各地の農場で指導をした。
- 第2回連携強化会議を2月3日にサンパウロで開催。次年度事業について、農業技術研修に加えてフードバリューチェーンに関わる産・学・官の関係者との交流を促進するため、日本企業や公的機関等との交流機会を拡大し新たな商流の開拓を模索することが方向性として示された。

【今年度事業結果総括・次年度事業への意見】

研修セミナー

- 訪日研修の国別の人数枠についての要望について、新しい参加国もあり今までの参加国が既得権益にならないよう人数枠の目安を設定するなど議論する余地があるのではないか。
→(農水省)できる限り国の多様性を多くしたい一方で、各国の人数枠を決めるとそれに縛られる可能性もあるため、ケースバイケースで配分を見直していきたい。
- 6次産業化や地域づくり、次世代リーダー育成は日本でも歴史や活発な取り組みがあるので、そういうものを活かした研修を検討できる。
- 研修参加者を検討する際はしっかり貢献度を図る必要がある。市議会議員であれば帰国後のセミナー回数を設定するなど、訪日研修が観光旅行とならないよう働きかけをすると良い。

ビジネス創出

- 有機性廃棄物の発酵処理機の商談など肥料価格の上昇という喫緊の課題を現地ニーズとうまく事

業に落とし込んでいる。ビジネスの成果はかなり長いスパンで見る必要があり、評価の軸を比較的長く持ちじっくりフォローするのがよい。

- ビジネス交流は長い目で見る部分もあるが短期的に見られる実績をしっかりとアピールすることが大事。商談件数や金額など可能な範囲で出していくと良い。
- 総じて今年度のプログラム構成は非常にうまくいったと評価している。ビジネスマッチングの方での成果も特筆大書してよい。

情報発信

- 日本国内で広報するため、地方研修時など各地の新聞社や日本農業新聞に声かけする、または訪問したJA単体だけではなくJA全体で取り上げてくれるような形にできないか。
→（農水省）政務官への表敬訪問時に日本農業新聞等に声掛けし3年振りの訪日研修事業ということで報道してもらった。いろんな媒体を使って事業広報も進めネットワークを更に広げたい。

他機関との連携

- スタートアップ支援機関プラットフォームPlusに入っている農研機構が今年度に扱った土壌改良・精密農業等のテーマで中南米に対してこの事業で何かできないか。
- 今回の研修生に、かつてJICAボランティアを派遣していた農協からの参加があった。JICA事業でボランティアを送るといった形で繋げることも可能だと思う。
- JICAや中小機構を利用し農水省事業後の日本企業フォローアップができるのではないかと感じる。日本への製品売り込みは難しい部分もあるが「Okinawa to沖縄」のような日系繋がりを活かしたマーケティングを一緒に検討したい。JICA事業との親和性もあり、研修事業やボランティア、助成金、大学との連携事業、中南米各国事務所のサポートの可能性もある。

2 日系農業者等連携強化会議

日本と日系農業者等との連携強化・交流及び日系農業者等の相互の交流・連携強化を図るとともに、若手農業者等の交流を促進するため、日系農業者等連携強化会議を以下の通り開催した。

回	日程	場所	参加者
第1回	令和4年8月3日	オンライン	116名
第2回	令和5年2月3日	サンパウロ・オンライン	144名

開催概要及び実施結果を以下に示す。議事録や参加者の詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。

(1) 第1回日系農業者等連携強化会議

1) 基本情報

日程	令和4年8月3日（水）8:00-10:00
場所	オンライン方式（ZOOM）
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、メキシコ、ウルグアイ
参加者	合計：116名 日系農業者：75名（ブラジル49名、アルゼンチン5名、パラグアイ4名、ボリビア9名、ペルー3名、コロンビア3名、メキシコ2名） 関係機関：41名（在外公館、JICA、在京大使館、事業推進委員、農林水産省、事務局）
内容	日本と日系農業者等との連携強化・交流及び日系農業者等の相互の交流・連携強化を図るとともに、若手農業者等の交流を促進する。第1回は事業開始のため本年度事業内容について説明を行い、日系農業者等の意見の聞き取りを行う。 1. 事業内容説明 2. 意見交換
言語	日本語・ポルトガル語・スペイン語同時通訳

2) 参加者

ブラジル(49)	トランスアマゾニカ農協(1)、サントイザベル・サントアントニオドタウア組合(1)、サントイザベル農協(1)、ノバリアンサ農協(1)、サンフランシスコバレー日伯協会(2)、ロライマ日伯協会(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、イビウナ農村組合(1)、イビウナ農協(3)、スルマツトグロセンセ農協(2)、APPC 農協(4)、南伯サンミゲールアルカンジョ農協(4)、バストス地域鶏卵生産者協会(2)、バルゼアアレグレ農協(1)、ブラジル農協婦人部連合会(5)、プロミソン日伯協会(1)、モジダスクルーゼス農村組合(5)、ラーモス果樹生産者地域連合(2)、トリアングロミネイロ連邦大学(1)、ロンドリーナ日伯協会(1)、日伯文化協会(1)、ブラジル日報協会(1)、Hub CocriAgro 社(1)、N&C do Brasil(1)、個人(5)
アルゼンチン(5)	ハルディンアメリカ生産者組合(1)、メルコフロール花卉生産者組合(2)、エコフロール花卉農協(1)、Agroroca SA Argentina Rio Negro 社(1)
パラグアイ(4)	パラグアイ日系農協中央会(1)、ラパス農協(1)、ラパス日本人会婦人会(1)、個人(1)
ボリビア(9)	コロニアオキナワ農協(2)、サンフアン農協(7)
ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(2)、サンマルコス国立大学(1)
コロンビア(3)	Carlos Yoshioka y CIA 社(1)、Alejandria 農場(1)、コロンビア日本協会(1)
メキシコ(2)	アカコヤグア江戸村協会(1)、個人(1)
関係機関(41)	在サンパウロ日本国総領事館(1)、在パラグアイ日本国大使館(1)、在ボリビア日本国大使館(1)、在ペルー日本国大使館(1)、在コロンビア日本国大使館(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、在ウルグアイ日本国大使館(1)、JICA (16)、拓殖大学(1)、海外日系人協会(1)、農林水産省(7)、事務局(9)

3) プログラム

時間	内容	担当
7:30-8:00	受付（接続開始）	
8:00-8:05	開始	事務局
8:05-8:10	開会挨拶	農林水産省
8:10-8:20	出席者紹介	事務局
8:20-8:35	昨年度事業結果	事務局
8:35-8:50	今年度事業内容説明	事務局
8:50-9:20	意見交換（研修について）	進行：事務局
9:20-9:50	意見交換（ビジネス交流、その他について）	進行：事務局
9:50- 9:55	閉会挨拶	パラグアイ日系農協中央会
9:55-	研修生募集に関する再告知	事務局



会議資料



全体写真

4) 議事要旨

【事業内容の説明】

- 研修・セミナー、ビジネスセミナー、日系農業者団体の組織紹介ビデオなど、昨年度の事業成果の報告。今年度事業計画として、訪日研修や中南米での専門家現地派遣、日系農業者等連携強化会議及び若手日系農業者等を対象とした交流会議のブラジル開催など対面式での実施を予定して

いることを発表。

- 日系農業者等研修・セミナーは3コース（生産性、土壌、特産品）で合計28名を募集し訪日研修を実施するが、研修内容の一部をウェビナーとしてオンライン配信することを予定している。新たな取組としては同研修に在日中南米人インフルエンサーを同行させ情報発信にも力を入れる。
- 新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種証明書や出発時のPCR検査が必要となり、感染状況によっては研修の実施が困難となり得るため、十分な注意が必要。
- 中南米での専門家派遣研修は「養鶏」をテーマに、ブラジルのバストスにパラグアイから養鶏専門家を派遣し取組紹介をすると共に、各国参加者との意見交換を行う。
- 日本企業2社（予定）を中南米へ派遣し、日系農業者とのセミナーや農場視察を行うほか現地バイヤーへの声掛けを行い、ビジネス展開支援を予定している。

【意見交換】

訪日研修

- 過去の訪日研修に参加したが学びが多く素晴らしい経験となった。ぜひ多くの方に参加していただきたい。
- 同事業に参加した際に各国参加者との交流もでき、とても有意義だった。
- なぜメキシコは対象ではないのか。
→予算や他省庁との仕切りを確認し、対象を広げることが出来ないか確認する。（会議後に見直し、メキシコ・コロンビア含む中南米諸国から参加が可能となった）
- コロナ対策として渡航時にPCR検査が必要になるが費用は事業負担か。
→事業予算で負担。水際対策等、直前で変更となることがあるので事務局でも注視していく。
- PCR検査で陽性となった場合、第2候補者の参加は可能か。
→出発直前の場合以外で時間的余裕があれば別の候補者もあり得るが、実施スケジュールが短期間であるため現実的には厳しいかもしれない。

応募方法

- 募集要項はあるか。また、非日系人が参加の場合通訳はつくか。
→事業ウェブサイトに掲載している。非日系人も参加可能だが事業の目的が日系組織・社会へ貢献する人材の育成のため、日系組織からの推薦状が必要。研修中は通訳も帯同する。
- 市議員のような政治関係者も参加可能か。
→応募は誰であっても可能。ただし選考では、日系社会・組織への貢献度を測ると共に、農業技術習得が目的の参加者を優先する。
- 日系組織・社会が少ない地域だが、勤務している大学からの推薦状でも問題ないか。
→応募自体は問題ないが、推薦理由や日系社会への貢献度が明確であることが重要。
- 3コース全てに同じ組織からの推薦は可能か。
→応募は可能だが、全体のバランスなどを考えて選考をする。応募時に第2希望まで選択可能。
- 国により定員は決まっているか。
→国毎の定員は決まっていないが、これまではブラジルからの応募が多く比率も高くなる傾向があるため、ぜひ他の国からも応募してもらいたい。最終的には全体のバランスを見て決定する。

事業PR

- 本研修の情報共有は各自で行って問題ないか。
→積極的に行ってほしい。事務局で案内しても組織の一部に留まり全体に広がらないことも多く課題となっている。情報は事業ウェブサイトその他、CKCブラジル事務所へコンタクトも可能。
- ブラジル日報協会も「Nippon Já」及び「ブラジル日報」の紙面を活用してプロジェクトの取り組みをPRすることに協力したい。

5) アンケート結果

- 会議や研修が対面式に戻ることは嬉しいニュース。会議で流れたビデオもわかりやすく、事業プログラムについてよく理解することができた。会議時間も適切だった。サンパウロで他の参加者に会える機会があるこ

とを楽しみにしている。

- 日本政府・農林水産省からこういったラテンアメリカの若手農業者への技術的な交流があるのは素晴らしい。今後の取組の中で、より生産性を向上でき、また環境に優しい最新農業技術（機械、資材、道具など）の紹介があるとよい。
- 日本での実地研修復活はとてもいいニュース。5か国限定でなく、より多くの国に研修範囲を広げられると、より多くの方々との意見交換ができるので、より有意義な研修、勉強会、会議などができると思う。
- 今年度事業が対面式で開催できることは素晴らしい。一方でコロンビアから日本での研修に参加できないことは残念に思う。
- 日本での研修の実施のため、昨年度のようなオンラインでの交流の機会が減ってしまったように思える。

(2) 第2回日系農業者等連携強化会議

1) 基本情報

日程	令和5年2月3日（金）9:00-17:10
場所	ハイブリッド方式（対面方式とオンライン方式の併用） 対面方式：ブラジル日本文化福祉協会会館 貴賓室（サンパウロ） オンライン方式：Zoom、9:30-12:00、13:30-16:00
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、メキシコ （オンライン：ウルグアイ、チリ）
参加者	合計144名 日系農業者：108名（ブラジル65名、アルゼンチン7名、パラグアイ9名、ボリビア6名、ペルー6名、コロンビア10名、メキシコ5名） 関係機関：36名（派遣企業・専門家、JICA、JETRO、在外公館、大学、農林水産省）
	対面方式 日系農業者：79名（ブラジル51名、アルゼンチン5名、パラグアイ6名、ボリビア6名、ペルー3名、コロンビア6名、メキシコ2名） 関係機関：26名（派遣企業・専門家、JICA、JETRO、在外公館、農林水産省、事務局）
	オンライン方式 日系農業者：29名（ブラジル14名、アルゼンチン2名、パラグアイ3名、ペルー3名、コロンビア4名、メキシコ3名） 関係機関：10名（JICA、在外公館、大学、事務局）
内容	日本と日系農業者等との連携強化・交流及び日系農業者等の相互の交流・連携強化を図るとともに、若手農業者等の交流を促進する。 1. 今年度事業実施報告 2. 意見交換（今年度事業、今後の動き） 3. 日本企業と日系農業者の商談会
言語	日本語・ポルトガル語・スペイン語同時通訳

2) 参加者

対面方式

ブラジル(51)	トメアス農協(1)、サントイザベル・サントアントニオダウア組合(1)、AMVコンサルティングサービス(1)、サンフランシスコバレー日伯協会(1)、バルゼアアレグレ農協(2)、イビウナ農協(3)、Campal Agropecuaria 社(1)、モジダスクルーゼス農村組合(2)、APPC 農協(4)、バストス地域鶏卵生産者協会(2)、プロミソン日伯協会(1)、弓場農場(1)、カッポンボニート農協(1)、文協レジストロ(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(2)、在伯長野県人会(1)、ブラジル農協婦人部連合会(5)、Ponte Pronta Publicidade 社(1)、南伯サンミゲールアルカンジョ農協(1)、グアタパラ農協(1)、Ventania 農場(1)、Oriental Biológicos 社(1)、アサイ日伯協会(1)、南伯農協アサイ(1)、ラーモス日伯協会(1)、サンパウロ州農業供給局(1)、ピエダーデ市農村開発・環境局(1)、サンパウロ州農業連盟(1)、サンパウロ州産業連盟環境部(1)、Mario Hirose コンサルティング(1)、NBC コンサルティング(1)、Deloi He(1)、MBS Foods(1)、Yamato(1)、Agrex(1)、Kanematsu(1)、サンパウロ大学(1)、NEC(1)
アルゼンチン(5)	ハルディンアメリカ生産者組合(2)、メルコフロール花卉生産者組合(2)、アルゼンチン社会開発省(1)
パラグアイ(6)	コルメナアスンセーナ農協(1)、ラパス女性部協議会(1)、イグアス女性協議会(1)、パラグアイ日系農協中央会(2)、全パラグアイ日系女性協議会(1)
ボリビア(6)	コロニアオキナワ農協(2)、サンフアン農協(4)

ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)
コロンビア(6)	IMECOL 社(1)、コロンビア日本協会(3)、Verduras Tanaka 農場(1)、Alejandria 農場(1)
メキシコ(2)	アカコヤグア江戸村協会(1)、iAgroS 社(1)
関係機関(17)	日産スチール工業株式会社(1)、中部エコテック株式会社(1)、高林農園（ヤマカワプログラム）(1)、JICA ブラジル(2)、JETRO サンパウロ(2)、在サンパウロ総領事館(1)、在パラグアイ日本国大使館(1)、在ボリビア日本国大使館(1)、在ペルー日本国大使館(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、農林水産省 輸出・国際局 国際地域課(5)

オンライン方式

ブラジル(14)	スルマットグロセンセ農協(2)、バストス地域鶏卵生産者協会(1)、ブラジル農協婦人部連合会(1)、文協レジストロ(1)、サンジョアキン農協(1)、ビトゥルナマテ茶協会(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、リオグランデドノルテ日伯協会(3)、Mafes Inteligencia Agronomica(1)、Enerbio(1)、個人(1)
アルゼンチン(2)	ハルディンアメリカ生産者組合(1)、AgroArgentinaJapon(1)
パラグアイ(3)	イグアス日本人会(1)、JOM 社(1)、個人(1)
ペルー(3)	ARA Export 社(1)、エスキベル農畜産物生産者協会(1)、国立サンマルコス大学(1)
コロンビア(4)	コロンビア日本協会(2)、Bioagro Technology SAS(1)、フルーツアンデス社(1)
メキシコ(3)	個人(3)
関係機関(9)	JICA ブラジル(2)、JICA パラグアイ(3)、在アルゼンチン日本国大使館(1)、在ウルグアイ日本国大使館(1)、在チリ日本国大使館(1)、東京農業大学(1)

3) プログラム

時間	内容	担当
08:30-09:00	受付	—
09:00-09:30	オープニングセレモニー	日伯食品・農業合同セミナー（※）
09:30-09:40	会場（貴賓室）へ移動、集合写真撮影	
09:40-09:45	開会	事務局
09:45-09:50	農林水産省挨拶	農林水産省
09:50-10:05	来賓紹介（予定：在外公館、JICA 関係者）	事務局
10:05-10:25	出席者及び初参加団体の紹介（コロンビア、メキシコ）	事務局
10:25-10:40	報告：事業全体	事務局
10:40-12:00	報告：訪日研修 コース 1 アグリビジネス研修「生産性」 コース 2 アグリビジネス研修「土壌」 コース 3 女性活躍推進研修「特産品」	研修参加者
12:00-13:30	昼食	—
13:30-15:00	意見交換（今年度実施結果・今後の実施内容）	事務局
15:00-15:15	コーヒーブレイク	—
15:15-15:55	農業ビジネスセミナー（※） 日本企業プレゼン	日産スチール工業 中部エコテック
16:00-17:00	日本企業商談会	日産スチール工業 中部エコテック
17:00-17:05	事務連絡	事務局
17:05-17:10	閉会挨拶	日系農業者代表
17:30-19:30	懇親会	—

※同日・同会場（別会場）で日伯食品・農業合同セミナー（農林水産省/JETRO）が開催

※農業ビジネスセミナーについては 5②(4)にも記載

4) 実施概況

【初参加団体の紹介】

- 連携強化会議に初めて参加となったコロンビアとメキシコから、日系社会・活動の紹介を行った。
- コロンビアは日本人移住が1929年に始まり、多くが農業に従事しバジェデルカウカに定住、日系人は約2200人、様々な日系団体が存在している。コロンビア日本協会は75家族が所属し会員約200名、年中行事や訪日研修の告知、日本文化紹介などの活動を行っている。
- メキシコの日本人移民は1897年に到着（榎本殖民団）、メキシコ南部には5つの日系団体が存在し、農業に従事している日系人は大半が果樹及び畜産農家である。アカコヤグア江戸村協会は日本文

化活動を行っており、2022年には125周年の記念式典を開催。

【事業実施結果報告】

- 事業紹介動画を上映し、今年度事業で行った取組の概略を報告。
- アグリビジネス研修「生産性」、アグリビジネス研修「土壌」、女性活躍推進研修「特産品」の3つの訪日研修コースの参加者による報告。研修内容の紹介動画上映した後、研修参加者が研修内で印象に残ったこと（写真）2つを紹介し、研修で得たこと、成果の報告を行った。

【意見交換】

研修事業

- 参加国が拡大しているため、国毎の訪日研修の人数枠を決めてはどうか。一度研修に参加した人が再度参加するにあたってのルール（3～4年経てば再度参加できる等）を決めてはどうか。サンパウロ以外の場所で連携会議をしてはどうか。
→様々な国から均等に参加してもらえような配分の仕方、サンパウロ以外の都市での連携会議開催を検討する。
- 農業機械や道具の体験型のコースをできないか。
→滞在型で技術を学ぶプログラムも検討する。
- 研修には野菜・穀物・果物の生産者、農業機械企業など、様々な農業関係者が参加するため、多様な参加者のニーズに応えるプログラムとなっていて素晴らしい。
→研修プログラムの多様化、ダイバーシティに取り組んでいく。
- アグリビジネス研修「土壌」に参加し、土壌改良及び生産性向上に係る革新的な方法について学ぶことができた。さらに高林専門家派遣によってブラジルで技術指導を受けることができ、普及に繋がっている。今後も継続して、ヤマカワプログラムが根付くように支援をお願いしたい。
→「土壌」コースへの評価に感謝。日本での研修で消費者ニーズや課題を見ていただき、ビジネスや土壌改良等の技術導入に繋がるように進めていきたい。

来年度事業（農水省より説明）

- 来年度事業は、①中南米日系人社会との連携強化、②農林水産物・食品の輸出促進、③食料安全保障の強化の3つに重点を置く。
- ①：農業者の方に加えて農業分野に関わる方、これは政治面、あるいは文化面、経済面で関わる方との連携を増やしていく意味でこの研修事業というものの対象範囲も広めていく。
- ②：中南米地域への輸出というのは非常に重要な位置付けであり、日本の食文化の基盤がある中南米で日系社会との連携は大事。
- ③：日本との安定的な食料貿易を確立するために、フードバリューチェーンに関わっている産業界・大学研究所・政治家・公務員等が、日本の企業・機関と交流する機会を作り、輸出促進・ビジネス、あるいは輸入の安定化に繋げる。

ビジネス

- 日本の優れた商品（例えばFreshmama）を購入できるように農林水産省の補助金が必要。例えば、乾燥機、凍結乾燥機、スライサー等、加工を行うための機械を導入するための補助金等の支援をお願いしたい（無償ではなく有償資金協力）。その他、雑草を抑制する小型耕運機など。
→ブラジルの農務省、あるいはブラジルの州政府と連携をしながら新しい設備導入に対する公的支援をつけるというような枠組みを考えていくことが1つの方法としてあるのではないかな。もしくは日本の支援により実証試験をし、実証後は州政府の補助金を使うなど。
- 日本政府が海運会社と協定を結ぶことで、輸出入プロセスを大幅に促進できないか。
→物流コスト・通関手続きの問題に対し、共同購入の形にする、官民一体で課題の協議を相手国政府と行っていくというようなことが考えられる。
- 中南米の参加国間で抱える共通の課題、例えば、協同組合精神、後継者対策などに関する交流ができればよい。
→お互いの課題を共有しながら一緒に答えを探していくというようなことも研修の一環としてやってもいいのかもしれない。

- イグアス農協は10年以上前から日本向けに非遺伝子組大豆を輸出していたが、要求事項が複雑すぎるため、現在は取引を停止した。ビジネスが成り立たなくなるので、政策面での改善が必要なのかもしれない。日系社会と日本の連携を強化する上でも日本側がもう少し柔軟に対応する必要があるのではないかと考え、また日本企業とのビジネスマッチングでは、売ろうと思っていなくても買おうと思っていないようで、双方向での関係であるべき。
→消費者の嗜好や安全規制が厳しく、自由な取引がしにくい構造的な問題があり、安全性の追求ばかりでうまく回っていかない認識も出てきていて、ビジネスの関係を作るために模索している。
- コロンビアに進出している大手日本企業は農産物を日本向けに輸出しているが、コロンビアの日系人が生産している農産物の輸出は限定的。中南米市場の購買力は益々強くなっており、日本企業にとって魅力的な市場であると思うので、日系人が中南米の大きな市場との架け橋となれる。訪日研修で日本経済の根幹には中小企業が存在することを知り、農業・食品加工部門の中小企業で私たちとのビジネスに興味を持ってくれる企業があるのではないかと考え、そのような企業までたどり着けるような支援をしてもらいたい。
→30年近くこの事業を続け、着実に日系人との繋がりを保っていく上では非常に大事な成果を残した。食料安全保障・輸出の拡大等の課題に対してこの事業の在り方も変えていく必要がある。日系人とのビジネス、相互にバランスのとれた貿易など、お互いにメリットがあるような事業にしていくことが大事。農水省だけでなく、関係省庁・企業・消費者団体等と繋がりを作りながら効果的な方法を探る。
- 日系人にとって、日本へ輸出できるというのは夢のような話。いつか日本へ輸出したいとずっと前から思っていた。また自動車産業のように、日本企業が日本より人件費が安いメキシコに進出し、日本の高品質な商品を生産するコストで中南米でより安いコストで生産することはできないか。チアパス州はチチュウカイミバエの懸念で日本にマンゴーを輸出できないが、農水省として専門家を派遣し、問題がないことを確認してもらえないか。
- メキシコのチアパス州のマンゴーが日本や世界中の食卓に並ぶように奮闘している。乾燥等の農産物加工の技術を学びたい、加工機械導入の支援をお願いしたい。
→植物検疫については、日本国内への病害虫の侵入を防止する必要な措置ではあるが、輸出側からみれば大きなハードルと認識。皆さんと一緒に考えながらうまく日本の市場に持って行けるような、あるいは日本からその製品を持って行けるような、お互いにメリットのある関係にできればと思う。



初参加団体紹介



訪日研修報告



意見交換



意見交換



全体写真

5) アンケート結果

対面参加

- 様々な国の参加者が集まり情報交換によって交流を深めることは非常に重要であり、そして皆が抱えている問題の解決案が類似していることが多いため、情報交換が有益なことだと考えています。このプロジェクトは長年続いており連携強化会議で多くの情報や経験が得られ私もこの中で参加できることを大変光栄に思っております。農林水産省には今後もこのプロジェクトの継続に努めてくださるようお願い致します。
- 他の研修コースの参加者とも会うことができてよかった。そして農林水産省と意見交換ができる場を設けてくれて本当に素晴らしいと感じました。今後とも是非女性部の研修を引き続き継続させてほしい。女性によるリーダーシップは組合にとっても重要だと考えています。
- 非常に重要な会議であると感じました。何よりも参加者同士が連絡先の交換や話し合いができ、実りあるものでした。また研修生の発表でそれぞれ違う視点で体験の話を書くことができ大変興味深いものでした。私にとっては翌日の女性部の交流会議が特に心に残るものでした。私よりも年上の女性たちの経験談を聞くのは非常に有意義な時間でした。ペルーとメキシコからの参加が無かったことは非常に残念ですが、パラグアイの女性たちの声が聴けて大変満足しています。各女性部も共通問題を抱えていることがわかりました。しかし女性部がなくなれば日系社会もままならないと断言できます。このような女性部の研修・交流会は今後も率先して継続させるべきです。
- 素晴らしいイベントでした。コロンビアもプロジェクトの対象国として参加可能にさせていただいて大変感謝しております。我々の組織でも意欲的に活動の継続に努めており、今後より多くの研修に参加できるように取り組んでいきたいと思います。
- 研修生たちの結果報告の発表内容でいかに有益なプログラムだったか確信が持てました。イベントも問題なく進行されており、他の研修生たちと再会が果たせたのがとても嬉しく絆を深めることができました。
- オンライン式は確かにより多くの参加者が見込めますが、人と直接話し合い新しい繋がりを得て新しい情報を引き出せるのは対面方式ならではの大きなメリットと言えます。鮮度保持のフィルムやヤマカワプログラムについて貴重な情報を得られ大変満足しています。
- 久しぶりの対面式会議に参加出来てとても嬉しいです。やっぱり直接対面することはモチベーション、意見交換を含め、オンラインとは全く異なる経験が得られました。
- このようなプロジェクトは間違いなく中南米の日系人たちの絆を強化し、日本と日本企業との連携体制を整える大事な場だと思います。中南米と日本との間でのビジネス展開は双方にとっても重要であり、お互い力を合わせる必要があると信じています。目標に近づくためにもこのプロジェクトが重要な一歩だと確信しています。会議でも申し上げた通り次のステップとしては輸出に繋げることだと思います。訪日研修とこの会議を通じて重要な繋がりを得ることができ、目標が近づいているのを実感しています。本当に感謝しており今後のプロジェクトにも期待しています。
- 対面方式での会議、各研修生の報告、そして各団体の代表者の参加の中で様々な活動や情報交換があり大変興味深い内容でした。メキシコも対象国となったことを大変うれしく思っており農林水産省のご配慮に感謝しております。
- 大変面白い内容であり、このようなイベントでは長年の経験がありスムーズに行われたと思います。空港の送迎、ホテルのサービス、会場までの移動がスムーズであり全てが行き届いていました。昼食と懇親会ではゆっくり食事をするための机が少なく、そして昼食と懇親会で農林水産省の方々と雑談ができず残念に思っております。また農林水産省の方々と意見交換が短く感じました。全体的には素晴らしい会議でした。
- 中南米の参加者と情報交換ができ非常に有意義な時間でした。このようなイベントに招待していただきコルメナアスンセーナ農協を代表して本当に感謝しております。コルメナアスンセーナ農協としてはブラジルのピラールドスルのぶどう農園での研修を希望しております。5〜6人ぐらいの参加者にぶどうの栽培に関する技術を学ばせたいと思います。
- 対面方式でつながったネットワークは非常に重要と考えています。そして我々農家が大きく抱えている共通の問題として後継者問題をテーマとして議論することを提案します。
- まずは会議に招待していただき感謝しております。数年ぶりの再会を果たせて大変うれしく思っております。また別の国の方々と交流できて大変良かったです。この会議は異なる国の考え方や情報交換の交流によって学べるものがたくさんあります。次の会議でパラグアイの参加者がもっと増えることを願っております。
- 中南米の日系人と交流を深め、日本の企業の製品に触れ合い、現実的な意見交換が将来のビジネスにつながるのだと思います。とにかく至れり尽くせりで配慮が行き届いておりスタッフの対応も素晴らしく非の打ち所がなく賞賛に値することを強調したいです。農林水産省の方々には本当に感謝しています。

- 訪日研修の成果報告のみならず参加者との情報交換などの交流が得られるために非常に重要な会議とみています。農業に関するビジネス展開の見聞を広める良いきっかけとなりました。
- 連携強化会議では異なる国の日系農家達が抱えている問題がある程度類似していることが理解できました。また農林水産省が実施している農家と女性を対象とした訪日研修はそれぞれが帰国した後に学んだ知識を周りに共有することで地域にも大きく貢献できると考えています。
- 対面方式の会議では得られるものが多いと再認識しました。他の研修コースの情報、新しい繋がり、情報交換によって新しいビジネスの閃きなど人との触れ合うことによって得られる刺激に勝るものはありません。女性部の研修に関しては継続してほしいと切に願っています。

オンライン参加

- 日系のみならず中南米全体の農業生産に目を向けていることを大変嬉しく思います。農業生産者そして消費者としての立場で非常に興味深いイベントと感じ、また企業のビジネス推進を目的とした活動が素晴らしいと感じられました。
- 中南米と日本の農家の関係を強化することについて理解ができ興味深いと感じました。また研修生達の声聞き、何を学んでどんな経験が得られたのかを知る素晴らしい機会でした。中南米と日本の企業間で戦略的ビジネス交流を行い将来のビジネスを見据えたプロジェクトの開発ができれば面白いと思います。

(3) 日系農業者ネットワーク

中南米日系農業者の中で、継続的に情報交換を行っているSNSグループは以下の通り。中南米の日系農業者間での連携が形となっている。

グループ名	参加者人数	内容
J-AGRO 	114 名	主に若手農業者等育成研修の参加者を中心にしたグループ。本事業に主体的に関わる日系農業者が加入していて、農業分野・日系社会に関するトピックの情報交換に利用されている。本事業の活動周知にも利用している。2018 年 11 月開始。
Nambei no Hana 	59 名	主に女性活躍推進研修の参加者を中心にしたグループ。料理講習会や日本文化活動など、主に各国の女性部活動の情報交換に利用されている。2019 年 12 月開始。
Yamakawa Program 	154 名	令和 3 年度事業でのオンラインセミナー実施に先駆け、ヤマカワプログラムを勉強していくために立ち上げた。ブラジルを中心に、農業者・研究者・農業関係企業等、関心を持った様々な関係者が参加し、人数が増加した。2021 年 8 月開始。

3 若手農業者等を対象とした交流会議

若い世代の交流を促進するため、日系農業者等連携強化会議に併せて、若い世代の関心の高いテーマを扱う交流会議をブラジルで 2 回実施した。テーマは第 1 回、第 2 回共に「土壌」。

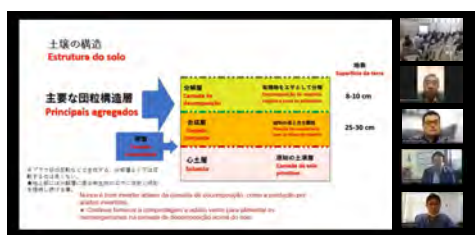
回	日程	場所	参加者
第 1 回	令和 4 年 9 月 7 日	サンパウロ州ピラルドスル市	61 名
第 2 回	令和 5 年 2 月 4 日	サンパウロ州モジダスクルーゼス市	43 名

会議開催概要及び内容を以下に示す。参加者の詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。

(1) 第1回若手農業者等を対象とした交流会議

1) 基本情報

日程	令和4年9月7日（金）8:30-12:00
場所	ハイブリッド方式（対面方式とオンライン方式の併用） 対面方式：サンパウロ州ピラールドスル APPC 農協 オンライン方式：Zoom、8:30-10:00 はライブ配信、10:30-12:00 は録画を後日共有
参加国	ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、コロンビア
参加者	合計：61名 日系農業者：55名（ブラジル44名、アルゼンチン1名、ボリビア3名、ペルー4名、コロンビア3名） 関係機関：6名（事務局）
	対面方式 日系農業者：29名（ブラジル28名、ペルー1名） 関係機関：3名（事務局）
	オンライン方式 日系農業者：26名（ブラジル16名、アルゼンチン1名、ボリビア3名、ペルー3名、コロンビア3名） 関係機関：3名（事務局）
内容	令和3年度事業のオンラインセミナー「土壌管理」で扱ったヤマカワプログラムが広めている微生物による土壌管理の方法について、意見交換をする日系農業者による SNS グループができており、さらに理解を深めるために対面での意見交換会をピラールドスルで行った。ヤマカワプログラムは光合成細菌によって耕盤層（土壌中で根が侵入できない硬い層）を無くし、土壌環境を改善する農法で、中南米から高い関心が示されている。 1. ヤマカワプログラム説明・意見交換会 2. オダ農場視察、光合成細菌・えひめ AI の取組視察
言語	日本語・ポルトガル語・スペイン語同時通訳



オンライン方式での意見交換



対面方式での意見交換



農場視察

2) 参加者

対面方式

ブラジル(28)	APPC 農協(8)、ピラールドスル(1)、南伯ピラールドスル農協(1)、南伯サンミゲールアルカンジョ農協(1)、南伯ビニャール農協(2)、バストス地域鶏卵生産者協会(2)、イビウナ農協(3)、ラーモス果樹生産者地域連合(1)、ABJICA(1)、Biofábrica(1)、Campal Agropecuaria 社(1)、Grupo Horta(1)、Oriental Biológicos 社(1)、UNB(1)、個人(3)
ペルー(1)	Abrandanos del Sur(1)

オンライン方式

ブラジル(16)	ビトゥルナマテ茶協会(1)、イビウナ農村組合(1)、モジダスクルーゼス農村組合(1)、ブラジル農協婦人部連合会(1)、ブラジル農牧省(1)、カンピーナス日伯協会(1)、Araagricola(1)、Emater-MG(1)、Fazenda Nishioka(1)、NDR insumos biológicos(1)、Sítio Marialva(1)、UEM(1)、UFMS(1)、WP Consultoria & Serviços Avançados(1)、Ydecon(1)、個人(1)
アルゼンチン(1)	ハルディンアメリカ生産者 組合(1)
ボリビア(3)	コロニアオキナワ農協(2)、サンフアン農協(1)
ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)
コロンビア(3)	コロンビア日本協会(1)、Alejandria 農場(1)、Verduras Tanaka 農場(1)

3) 実施概況

- 令和2年度・3年度とオンラインのみでセミナー・会議を実施し、この交流会議が対面式で実施する令和4年度事業における最初の対面式のイベントとなった。参加人数が多くなりすぎないように

対面式の参加者はピラールドスル近郊の20名程度として、他はオンラインでの参加というハイブリッド形式で実施した。

- テーマは令和3年度の土壌管理セミナーで取り上げたヤマカワプログラムによる土壌の改善の継続であり、セミナーを受講した人たちで耕盤層をなくすためのディスカッションを行うことを目的とした。令和3年度のセミナーの内容を復習すると共に、扱われなかった重要な点も合わせて確認事項に加えた（気孔、水孔の働き、根粒菌の窒素固定以外の働きとして、吸収されてない土中にあるリン酸の有効化等）
- 若手農業者等の育成研修のアグリビジネス研修「土壌」ではヤマカワプログラムの創始者のいる北海道を訪問して現場指導を受けるため、この意見交換で出てきた疑問点等を整理し、訪日研修の中で解決することを目指す。
- さらにサンパウロ近郊では堆肥作りに必要な材料の入手がだいぶ困難状況にある中、細菌に必要なエサとなる、堆肥・緑肥についての意見交換を行った。さらに、光合成細菌・えひめAIの製造現場視察をした。セミナーに参加した生物学の先生、有機農法の指導者の申し込みもあり、農業者の情報交換を大いに盛り上げた。特に現場視察の際に、細菌類のエサに必要な緑肥（マメ科）、ボカシ、炭、光合成細菌、エヒメAI等の資材の準備が困難な地域における可能な対応策を見ることが出来た。

4) 参加者所感

- 技術的な知識に溢れる非常に興味深い会議でした。難しい理論を並べるより生産者目線で分かりやすく、実用性が高い技術の説明が良かったと思います。対面式で参加が可能でなかったのが残念です。これらの知識をブラジルの農家達へ発信したいと考えています。
- 基本的には土壌内のバランスを保つことによって土壌の健康を促して、生産性が上がるという原理が理解できました。これらの知識を農業開発研究施設や大学などを交えて研究をすることが重要だと考えます。
- 学んだ知識を自分の農場で実践していきたいと考えています。まずは部分的に実践し、どの程度土壌の改善が見込めるのか試していきたいです。今年度の訪日研修に参加するので「土のスープ」を作るために必要な酵母の入手法などについて知りたいと思っています。
- やはり対面式で現場を見れたことが大きいと考えています。プレゼンテーションと土壌改良の実践事例を見れたのが参考になり、適切な管理による土壌改良の技術が学べました。
- 参加者同士で交流ができて本当に有意義な時間でした。非常にシンプルな方法で本当にそれでいいのかと疑問に思いますが、シンプルだからこそ実践する価値もあると考えます。
- 対面式は、オンラインでの情報交換とは異なり、参加者にとって実りあるものになったことは確かです。今後は、微生物の増殖方法を変えて結果の比較や、散布する頻度を増やして効果を早めることができるかどうかを試していきたいと考えています。
- 何十年もの間、土壌をないがしろにしていたような気分です。薬品などは高価ですし、改めて土壌と向き合って環境にやさしい技術を取り入れる必要性について考えさせられました。今回の研修で学んだ知識は決して難しいものではなく十分に実用性のあるものだと考えています。セミナーの時間が少なく、もっと時間が欲しいくらいでした。
- 自分が経営している果樹園の一部を試験圃場として、いかに土壌改良の効果がみられるのか試してみたいです。誰でも低コストで実践できることが大きな利点と考えています。
- 今回のセミナーでは、土壌再生の画期的かつ効果的な手法を学ぶことができました。「土のスープ」を用意し土壌の生産性の変化を比較検討したいです。
- 今回の研修でヤマカワプログラムについて初めて知りました。提供された情報を一度整理して現場で応用したいと考えています。
- このプログラムは低コストでより栄養価の高い土壌を作ることができ、その結果、生態系や環境に優しい方法で、土壌を回復・維持することができるというもので、非常に興味深いものでした。

(2) 第2回若手農業者等を対象とした交流会議

1) 基本情報

日程	令和5年2月4日(金) 9:00-16:00
場所	サンパウロ州モジダスクルーゼス農村組合
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、メキシコ
参加者	合計: 43名 日系農業者: 31名(ブラジル16名、アルゼンチン2名、パラグアイ1名、ボリビア3名、ペルー3名、コロンビア4名、メキシコ2名) 関係機関: 12名(派遣企業、在外公館、農林水産省、事務局)
内容	中南米各国の日系農業者から、微生物を活用した土壌環境の改善というヤマカワプログラムに関して強い関心が寄せられている。日系農業者等連携会議に参加した日系農業者に対して、派遣中の高林専門家から講演を行うと共に、農場での現場指導を通じて土壌管理に関する農業者同士の意見交換を行った。 1. 講演「微生物を活用した土壌環境改善(ヤマカワプログラム)」 2. 土壌管理に関する意見交換 2. オガワ農場視察
言語	日本語・ポルトガル語・スペイン語同時通訳



講義の様子



土を掘って土の構造の解説



農場視察

2) 参加者

ブラジル(16)	イビウナ農協(1)、イビウナ農村組合(1)、トメアス農協(1)、モジダスクルーゼス農村組合(4)、ラーモス日伯協会(1)、南伯農協アサイ(1)、Ventania 農場(1)、Campal Agropecuaria 社(1)、Oriental Biológico 社(1)、Nakagami CKC(1)、NEC(1)、個人(2)
アルゼンチン(2)	ハルディンアメリカ生産者組合(2)
パラグアイ(1)	コルメナアスンセーナ農協(1)
ボリビア(3)	コロニアオキナワ農協(2)、サンフアン農協(1)
ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)
コロンビア(4)	IMECOL 社(1)、Verduras Tanaka(1)、Alejandria 農場(1)、個人(1)
メキシコ(2)	iAgros 社(1)、アカコヤグア江戸村協会(1)
関係機関(12)	日産スチール工業株式会社(1)、在サンパウロ総領事館(1)、在パラグアイ日本国大使館(1)、在ボリビア日本国大使館(1)、在ペルー日本国大使館(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、農林水産省(3)、事務局(3)

3) 実施概況

- 第2回日系農業者等連携強化会議で中南米各国からサンパウロに集合した日系農業者に対して、会議翌日に「土壌」という農業者の関心の高いテーマで、交流会議を開催した。現在中南米では、土壌の疲弊が問題となっており、持続的な農業のために微生物を活用した土壌環境改善には高い関心が集まっている。光合成細菌による土壌環境改善を提唱するヤマカワプログラムを長年実践している農業者である高林専門家(農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修での派遣)を講師に、サンパウロ州のモジダスクルーゼスにて、講演と意見交換、農場での現場指導を行った。
- ヤマカワプログラムに関しては、中南米の日系農業者の関心は非常に高く、連携強化会議にサンパウロ以外から参加した多くの農業者が翌日のモジダスクルーゼスでの交流会議に参加した。午前中には土壌中の層や根の生長、植物の構造について説明し、ヤマカワプログラムの1つの特徴である「土のスープ」の散布によって、根が侵入できない耕盤層が無くなり、棒が地面に刺さるよ

うになることを座学で解説し、意見交換を行った。午後にはオガワ農場へ移動し、農場で地面に穴を掘り、根の侵入状況や耕盤について農業者に説明した。座学と現場指導を組み合わせることで、より理解が深まるプログラムとなるようにした。

- 参加者からの評価は高く、実践してみたいという声が多く聞かれ、土壌がいかに関心度の高いテーマであるかを認識できた。また令和3年度のオンラインセミナー「土壌管理」の際に、ヤマカワプログラムを勉強するためのWhatsAppグループを10人程度で立ち上げたが、人数が徐々に増えて、この交流会議が終わった後に合計150名ほどの人数となっている。非常に農業者の関心が高く、活発に情報交換が行われている。

4) 参加者所感

- 大変面白い議論が繰り広げられたと思います。光合成細菌を用いた土壌を回復・蘇生させるヤマカワプログラムについての説明が分かりやすいものでした。
- ヤマカワプログラムを実施することによって耕盤層の問題が実際に軽減できるのであれば、機械などを使用の削減に繋がり、コスト削減かつ生産性向上が見込まれます。
- 土のスープを実際に作って私の農場の一部を比較検討しながら実験したいです。百聞は一見に如かずとはよく言ったもので、農場での研修は大変有意義でした。耕盤層を探し出す作業は既に経験がありますので、今後は土のスープを実際に作り実験したいと思います。
- 画期的なプログラムであるのは間違いないと思いますが、ヤマカワプログラムがサトウキビ畑でどのように機能するのか、光合成細菌を持ち帰りコロンビアで実験したい。
- 環境にやさしい耕盤層の対処方法を知り大変有意義な時間でした。コロンビアへ帰国してあらゆる方法で比較検討し本プログラムの効率性を確認し他の生産者にも共有したいと思います。
- 今までではオンラインセミナーで参加しましたが、今回は現場で実際に見学することによって今までの疑問点が全て解消されました。メキシコも事業の対象国に加えてもらい農林水産省に大変感謝しています。
- 土壌の微生物を活性化させることがいかに重要かは良く知られていることだけでも、こんな簡単な手法で本当に耕盤層が無くなるというのは信じがたく、まずは実践してみたい。そしてすべての土壌にも適用できるのかも検証が必要。なぜならメキシコのチアパス州の沿岸部では年に数回しか雨が降らず、6ヶ月もの長い乾期がある土壌もありほぼ砂漠地帯です。高林専門家にも伝えたが是非メキシコのチアパス州へ訪問し、農業大学と地域の農業生産者を通じてヤマカワプログラムを広めてほしいと思います。